



第 47 回 JSiSE 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

テーマ：ニューノーマル時代のインクルーシブ教育を支える教育・学習支援技術

<https://taikai2022.jsise.org/>

- 開催日時： 2022 年 8 月 24 日(水) ～ 8 月 26 日(金)
- 会 場： 新潟工科大学 / オンライン (ハイブリッド開催)
※変更の可能性あり
- 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会

■ 全国大会の実施方法について

第 47 回全国大会は、対面・オンラインのハイブリッドで実施できるように調整を進めております。ハイブリッドの導入に伴い、大会のプログラムが例年とは異なる構成になっておりますので、ご注意ください。詳細な実施方法につきましては、決まり次第アナウンスいたします。

なお、今後のコロナウイルスの感染拡大に応じて、すべてオンラインに変更する可能性もありますのでご注意ください。

■ 大会日程 (予定) ※大会日程は変更される可能性があります。

8 月 24 日 (水)	
午前	プレカンファレンス
午後	オープニング(会長・開催校挨拶), 特別講演, メインイベント
8 月 25 日 (木)	
午前	インタラクティブセッション・学生研究特別セッション(*)
午後	一般・企画セッション
8 月 26 日 (金)	
午前	一般・企画セッション
午後	一般・企画セッション, クロージング

(*)インタラクティブセッション・学生研究特別セッションはオンラインのみで実施する予定です。

(会場内からもオンラインで参加いただけるよう、一般・企画セッションの会場を開放する予定です)

■ 大会までのスケジュール

原稿修正締切（6月1日(水)）の後に、参加申込が開始されます。発表者には、参加申込の開始時にメールでご連絡いたします。

※発表者は必ず6月30日(木)までに参加申込を行う必要がありますので、ご注意ください。

	発表者	発表者以外
○ 2022年6月2日(木)	参加申込開始	
○ 2022年6月30日(木)	参加申込締切	—
○ 2022年7月26日(火)	—	前期参加申込締切
○ 2022年8月5日(金)	参加費納入締切（郵便振替・コンビニ決済）	
○ 2022年7月27日(水) ～ 大会期間中	—	後期・当日参加申込 (クレジットカードのみ)

■ 大会参加費

前期参加申込	後期・当日参加申込
一般会員：7,500円 学生会員：3,200円 非会員（学生以外）：10,800円 非会員（学生）：5,400円 論文掲載料：1,000円（論文一編につき）	一般会員：8,500円 学生会員：4,000円 非会員（学生以外）：12,000円 非会員（学生）：6,500円
※全国大会当日、またはそれ以前に入会手続きを行われる場合は、会員料金でお申し込みいただけます。	

ハイブリット開催に伴い、第47回大会の前期参加申込以降の申込は後期・当日参加申込の金額が適用されます。後期・当日参加申込はクレジットカードのみ対応しますのでご注意ください。

Web 論文集公開日との兼ね合いによりお支払い後のキャンセルは8月14日(日)までとなりますのでご了承ください。（8月15日(月)以降に新規お申し込みされた場合は返金には応じられません。）

参加費等はいずれも税込みです。支払いの詳細は、大会 Web サイトをご覧ください。

プレカンファレンスの参加は自由です。これらのみに参加する場合は、大会参加登録、および参加費の支払いは不要です。

■ プログラム

プログラムは変更される可能性があります。最新の状況は大会 Web サイトに掲載いたします。

○ プレカンファレンス

PC1 エージェンシー育成のための社会情動的スキルワークショップ

山川修（福井県立大学）、多川孝央（九州大学）、藤平昌寿（帝京大学）、安武公一（広島大学）、真嶋由貴恵（大阪府立大学）

PC2 JSiSE OB・OG が語る会 ～学会、研究を通じて学んだこと、仕事で求められていること～（仮）

産学連携委員会（代表：松浦健二（徳島大学）、人材育成委員会：小西達裕（静岡大学））

PC3 誰のための「教育システム情報学マップ」？ —「問いの体系化」を軸に考える—

教育システム情報学マップ作成 WG：近藤伸彦（東京都立大学）、田中孝治（金沢工業大学）、山元翔（近畿大学）、大崎理乃（武蔵野大学）、米谷雄介（香川大学）、高橋聡（関東学院大学）、

田和辻可昌（早稲田大学），東本崇仁（東京工芸大学），林佑樹（大阪公立大学），光原弘幸（徳島大学）

PC4 反転が生み出す論文執筆のブレークスルー — ディスカッションベースの論文投稿ファシリテーション —

瀬田和久（大阪公立大学），村上正行（大阪大学），後藤田中（香川大学），田中孝治（金沢工業大学），高木正則（電気通信大学），山崎治（千葉工業大学），近藤伸彦（東京都立大学），山元翔（近畿大学）

PC5 高校生・大学生のファシリテーションによる ICT を活用した高大連携事例
宮下伊吉（三重大学）

PC6 教育支援スマホアプリのハンズオン
田中 雅章（暁学園 四日市大学）

○ 企画セッション

1. エージェンシー育成のための社会情動的スキルに関する研究
2. 教育 DX を支える LA（Learning Analytics）の多面的検討
3. ニューノーマル時代における先進的な学習状態推定と学習体験創出
4. データサイエンス教育における授業設計
5. 近未来の医療者教育
6. 教育 DX と実世界指向学習環境
7. 「答えのない課題の解決に挑む学び」を支える教育システム・デザイン

■ 講演論文集について

第 45 回大会より CD-ROM での配布を廃止し，Web による配布のみとしております。Web 版の講演論文集は，2022 年 8 月 15 日(月)に大会参加者のみに公開され，2023 年 3 月 1 日(火)に一般公開されます。

■ 企業展示・広告の募集

企業展示・広告を募集いたします。お申し込み先など，詳細は大会 Web サイトをご確認ください。

■ 協賛金のお願い

大会運営のための諸費用として使用させていただく協賛金を募集しております。ご協力賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。詳細は大会 Web サイトをご確認ください。

■ 大会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

一般社団法人 教育システム情報学会 全国大会委員会

E-mail : jsise-desk@bunken.co.jp



2022 年度研究会開催スケジュール

担当者： 研究会委員会

2022 年度の年間スケジュールは下記の通りです。

詳細は、学会ウェブページ (<https://www.jsise.org/society/committee.html>) をご覧ください。

回	テーマ	開催日	会場	申込締切	原稿締切
第 1 回	DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野の DX 人材育成／一般	終了	オンライン開催	終了	
第 2 回	ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般	2022 年 7 月 16 日(土)	北星学園大学 (北海道札幌市)	終了	2022 年 6 月 16 日(木)
第 3 回	対面・オンライン・ハイブリッド授業支援／一般	2022 年 9 月 23 日(金) もしくは 30 日(金)	オンライン開催	2022 年 8 月 4 日(木)	2022 年 8 月 25 日(木)
第 4 回	スキル開発とその支援技術／一般	2022 年 11 月(予定)	徳島大学	未定	未定
第 5 回	教育 DX と実世界指向学習環境／一般	2023 年 1 月(予定)	拓殖大学(文京 キャンパス)	未定	未定
第 6 回	学校段階間での接続を意識したデータサイエンス教育／一般	2023 年 3 月(予定)	北九州市立大学	未定	未定
特集	未定	2023 年 3 月(予定)	北九州市立大学	未定	未定

研究会全般に関するお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。



2022 年度 第 2 回研究会 開催案内

担当者：不破泰、小松川浩、布施泉、野崎浩成、金子大輔（研究会委員会）

■テーマ：ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般

■開催日時：2022 年 7 月 16 日（土）

■開催場所：北星学園大学（対面のみの実施）

札幌市厚別区大谷地西 2 丁目 3 番 1 号

札幌市営地下鉄 東西線 大谷地駅下車徒歩 5 分

<https://www.hokusei.ac.jp/access/>

■発表申込締切：2022 年 6 月 2 日（木）

■原稿提出締切：2022 年 6 月 16 日（木）

■趣旨：

現在、教育現場においては、ICT を活用した多様な学習支援が行われています。令和 4 年度に教職課程のコアカリキュラム「情報通信技術を活用した教育に関する理論および方法」が新設されたことから分かる通り、ICT を活用した学習支援はもはや「当然のこと」であり、どのような学習支援にどのように ICT を活用するかを考えなくてはなりません。また、高大連携改革などの流れの中で、各教育課程における質保証に関する議論も行われていますが、それらは ICT の効果的な活用が前提になっています。

上述の背景から、本研究会のテーマを「ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般」としました。ICT を活用した学習支援、教材システム、学習支援の環境や技術、学習コンテンツの開発・評価など、e-Learning や学習支援に関する研究だけではなく、そのようなシステムやコンテンツの活用事例を通じた教育的な効果や有効性に関する研究を広く募集します。これらの研究を通じて、学習支援のあり方や教育の質保証について検討し、現在のさまざまな教育の課題に切り込み、解決の糸口を探ることを目指します。また、システム開発やコンテンツ作成をはじめ、教育実践や教材評価、カリキュラムの設計、学習科学、言語教育など、教育やシステムに関連した幅広い分野からの発表も歓迎いたします。職場の同僚や共同研究をしているグループなど、お誘い合わせの上奮ってご参加下さい。

■発表時間等：

発表時間は 25 分（発表 17 分、質疑 7 分、入れ替え 1 分）を予定しております。

■発表申込および研究会への参加方法：

研究発表および研究会参加には、研究報告の年間購読（4,000 円／年）または各回の研究報告の購入（1,000 円／回）が必要となります。ただし、聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません。

○発表者

発表申込および原稿提出は、Web サイトの「申込者ログイン」よりお願いします。また、事前参加申込（研究報告の購入）は 2022 年 6 月 17 日 9 時に開始します。開始時刻以降に「申込者ログイン」から手続きしてください。

○聴講のみを希望する学生会員

聴講のみを希望する学生会員は、「申込者ログイン」での手続きは行わず、下記の問い合わせ先まで直接メールでご連絡ください。

○上記以外の参加者

事前参加申込（研究報告の購入）は 2022 年 6 月 17 日 9 時に開始します。開始時刻以降に、Web サイトの「申込者ログイン」から手続きしてください。クレジットカード払いであれば当日まで事前参加申込が可能です。それ以外の支払い方法は 7 月 9 日まで選ぶことができますが、支払期間内に入金しないと参加申込が確定となりません。支払期間は完了通知メールに記載されますので、必ずご確認をお願いいたします。現地での当日申込は行いませんのでご注意ください。

申込者ログイン：<https://iap-jp.org/jsise/course2/login.php>

■研究報告執筆フォーマット：

- 研究報告執筆要領：<https://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf>
- 研究報告見本：<https://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf>
- 研究報告ひな形：<https://www.jsise.org/society/doc/sample.docx>
- オンライン講演申込・原稿投稿方法：<https://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf>

■オンラインでの実施について：

本研究会は対面のみの実施となります。新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、現地での開催を中止し、オンラインでの開催に変更する可能性があります。オンライン開催に変更する場合の判断は、遅くとも 6 月末までには行います。この場合、すでに事前参加申込を行っている方には担当より zoom のアクセス先などをご連絡いたします。

■お問い合わせ先：

金子大輔（北星学園大学）

E-mail：kenkyuu-2nd-ml@jsise.org（[at]の部分で半角の「@」に変えて下さい。）



2022 年度 第 1 回研究会 開催報告

担当者： 加藤泰久，仲林清，真嶋由貴恵，松居辰則，森本容介（研究会委員会）

テーマ： DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野の DX 人材育成／一般

※学習分析学会と合同開催

開催日時： 2022 年 5 月 14 日（土）10:30～16:15

開催場所： オンライン開催（Zoom 使用）

発表件数： 10 件（原稿なし発表 1 件を含む）

今年度の第 1 回研究会は、「DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野の DX 人材育成／一般」をテーマに開催いたしました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防の観点から Zoom を用いてオンラインで開催いたしました。

テーマに掲げた DX に加えて、脳活動や Human-Agent Interaction (HAI) に関する研究、機械学習の応用、学習管理システムの改善に向けた調査研究、高等教育における授業設計・実践、各種教材開発など、多様なテーマでの発表が 3 セッションにわたり、計 10 件行われました。発表を通して、各大学、機関における問題意識や取組等も知ることができました。

参加登録された方は 36 名で、いずれのセッションも活発な議論が行われました。第 1 回研究会は、オンラインのみでの開催が 3 年目になりました。オンライン開催が特別なものではなくって久しく、ノウハウも蓄積され、特段のトラブルなく予定通り進行できました。対面には及ばないにせよ、十分な議論ができたのではないかと考えております。

研究発表のタイトルは、以下の通りです。

- メンタルローテーション課題における視線移動と脳活動の探索的検討
- 振動刺激を用いた学習支援ロボットの安心感動作に対する学習者の意図推定の誘発
- テキストと画像を入力とする学習者モデルの構築手法の提案
- 障害のある学生から見たオンライン授業とニーズ認識の欠如—LMS を改善するための研究②—
- 大学教員から見たオンライン授業での困難および障害学生への対応—LMS を改善するための研究③—
- オンライン活用による海外連携 PBL 実践から見えた課題と考察
- 変革に適応するキャリア教育の設計：SEL によるストレス対処力の変化
- 人間的力量育成のための導入教育の設計と試行
- STEAM 教育への適用を意識した情報通信ネットワーク教材の開発
- 地方自治体職員の DX 人材育成における業務関連性を重視した e ラーニング教材設計の成果と問題点



「ラーニングイノベーショングランプリ 2022」 一次審査応募結果

教育システム情報学会 産学連携委員会 委員長 松浦 健二

教育システム情報学会が共催している産学連携イベントであるラーニングイノベーショングランプリの一次審査応募受付が、5月23日（月）午前12:00に締め切られました。日本全国の大学・高専の研究室から32件の応募（表1、表2）がございました。

一次審査の結果は、6月1日（水）に公式サイトにて発表される予定です。最終審査および表彰式の予定はスケジュールをご確認ください。2022年度はグランプリの受賞者プレゼンテーションと表彰式が、2022年7月13日～15日に東京国際フォーラムで開催される展示会「ラーニングイノベーション2022」（主催：日経新聞社、日経BP、共催：日本イーラーニングコンソシアム、ラーニングイノベーションコンソシアム）の中でおこなわれます。

【公式サイト】

<https://ligp.gingerapp.co.jp/>

【スケジュール】

5月23日（月）：応募受付締め切り（午前12:00締め切り）

6月1日（水）：一次審査結果発表

6月1日（水）～6月20日（月）：動画制作期間

7月1日（金）：審査結果発表

7月13日（水）：受賞者プレゼンテーション、表彰式

（「ラーニングイノベーション2022」にて）

【運営体制】

主催：ラーニングイノベーションコンソシアム（LIC）

共催：教育システム情報学会（JSiSE）、日本イーラーニングコンソシアム（eLC）

協賛：日本情報科教育学会、日本教育工学会、人工知能学会、情報処理学会 CLE 研究会、
学習分析学会、電子情報通信学会教育工学研究会

協力：日経BP、ジンジャーアップ（公式サイト）

運営：ラーニングイノベーショングランプリ実行委員会

プラチナスポンサー：ジンジャーアップ

ゴールドスポンサー：サイコムブレインズ、デジタル・ナレッジ、WARK

ネーミングライツスポンサー：Moodle Pty Ltd/イーラーニング、ユームテクノロジージャパン

表1 ラーニングイノベーショングランプリ 2022 一次審査応募結果 (No.1~20)

No.	研究タイトル	大学	チーム名
1	議論における発言の仕分けに着目したファシリテーションの学習手法	千葉工業大学院	仲林研究室
2	オンライン講師画面のディープフェイクによる見かけの操作と授業参加への積極性の検証	東京大学	バーチャルリアリティ教育研究センター
3	VRを用いた同期型遠隔授業による内容言語統合型異文化理解学習のデザイン	神戸学院大学	VR推進チーム
4	Web上での調べ学習でコンテキストアウェアな空欄補充問題を自動生成!	電気通信大学	Webチーム
5	持続可能なイノベーションを実現するデジタルものづくり人材育成	北九州工業高等専門学校	Kuchii-Lab.
6	プログラミング学習支援システム	函館工業高等専門学校	ニート函館(National Institute of Technology, Hakodate College)
7	三角ロジックを用いた仮説推論と演繹推論の差異理解支援	広島大学	学習工学研究室
8	VRによるワクワクドキドキを刺激する科目横断的な看護師教育デザイン	福岡大学	FUSiON プロジェクト
9	武道教育のDX化による教授学習パラダイムの転換	桐蔭横浜大学/慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程	高瀬研究室(桐蔭横浜大学)
10	大学数学における学習意欲検査と学習データを用いた内省を促す相対比較フィードバック	岩手県立大学	MinaLab
11	グループ学習における障害を支援するシステムの設計	広島大学	学習工学研究室 KB 班
12	キットビルド型マインドマップ ~マップの再構成により、「作るだけ」で終わらせない活用を~	広島大学	学習工学研究室 KB 班
13	弱いロボットに教えて学ぶ英文法学習支援システム	電気通信大学大学院	柏原研究室 学習支援ロボットチーム
14	提出物管理システムの開発	大阪工業大学	マンパワーズ
15	ゲーム没入環境における発話積極性認識を用いた模擬対面英会話学習	関西大学大学院	米澤研究室
16	大学生による新興国・建築都市デザイン提案のためのオンライン・インターンシッププログラムの開発	九州産業大学	チーム SDGs 居住環境デザイン
17	日本の文化と国民性に合わせた現実的な性教育の提案	共立女子大学	文芸学部 谷田貝研究室 教育研究班
18	VRと香り発生装置による古典文学上の「恋」ができるシステム	共立女子大学	文芸学部 谷田貝研究室 日本文学研究班
19	MRとアバターを活用したインクルーシブなコミュニケーション環境の開発	香川大学	米谷研究室
20	デジタル刺繍ミシンを活用したプログラミング学習のためのツール開発	鎌倉女子大学・青山学院大学	NEO CWR

表2 ラーニングイノベーションングランプリ 2022 一次審査応募結果 (No.21~32)

No.	研究タイトル	大学	チーム名
21	ロボットプレゼンをデザインしてプレゼン動作を見直し	電気通信大学	柏原研究室 学習支援ロボットチーム
22	教員志望者の模擬授業訓練システムの開発	大阪工業大学	メディアインタラクション研究室
23	学習者の注意維持をインタラクティブに促すロボット講義と講義改善	電気通信大学	柏原研究室 学習支援ロボットチーム
24	英文読解のキットビルド概念マップとベイジアンネットワークによる学習支援環境の設計	広島大学	学習工学研究室相川木田ペア
25	中学数学におけるカード選択方式を用いた証明問題解決支援システム	函館工業高等専門学校	倉山研究室
26	Essay Auto-grade	高知工科大学	Moodle Enhancements 機能強化
27	小学校体育授業における 3D アニメーションを活用した学習システムの提案	関西大学大学院 総合情報学研究科	教育実践チーム
28	プレゼンテーションドキュメントにおけるスライド間の論理関係可視化ツール	電気通信大学	柏原研究室 Web チーム
29	プレゼンテーション再体験によるセルフレビュー支援システム	電気通信大学	柏原研究室 VR チーム
30	意思決定における妥当性の振り返りのための学習支援システム	東京工芸大学大学院	東本研究室 就職支援システム班
31	学習データによる学習の動機付けとなる情報を提供するシステム「KadaSwitch/カダスイッチ」	香川大学	香川大学八重樫研究室
32	多義語の意味を考慮する語彙学習支援	東京学芸大学	語彙学習支援システムチーム



2023 年度発刊 特集号論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

「次世代の人材を育成するために変革する教育システム」

論文投稿締切：2022 年 6 月 15 日(水)（~~〆~~切延長しました）

2023 年 4 月 1 日 発行（予定）

COVID-19 の影響により、各高等教育機関でのオンライン授業、BYOD が広く展開されるなどデジタル技術の活用が促進され、新たなカリキュラムや学習のあり方、学習環境の革新に向けて、教育手法が一層多様化していく中で、そうした時代に対応すべく教育 DX(デジタル・トランスフォーメーション)が謳われています。ポストコロナを見据えた「Society 5.0」では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が提唱されています。そうした社会システムの実現に向けて、数理的推論やデータ分析力を含むリテラシーや、論理的思考力、規範的判断力をベースに社会システムを構想・設計する力を持つ人材が求められています。また、現在、大学入学共通テストへの「情報」の出題が検討される中、専門分野を問わず、誰でも数理・データサイエンス、AI 活用の素養を身につけられる教育システムが必要となっています。本特集号では、このような状況下での次世代の人材を育成するために変革する教育システムにフォーカスします。

1. 対象分野

Society5.0 の実現のためにベースとなる SDGs では、地球規模の課題解決に取り組み、社会に貢献できる人材を育てることが社会的使命となっています。農業・工業・医療等、あらゆる幅広い分野において、レジリエントな社会の実現に向けた価値観を育む DX(デジタル・トランスフォーメーション)が期待されます。今後の Society5.0 の発展を見据え、初等・中等から高等教育機関における AI 教育、情報教育等に加え、リカレント教育も含めた社会の教育発展に寄与する先行的な取り組みに注目します。情報教育（デジタルリテラシー教育、IoT を利活用したサービスデザインの教育、教育の枠組み設計等）、また、地域活性化に向けた産学連携・産学官連携も含めた人材育成支援の取り組み等に関する発表を広く募集いたします。

2. 論文種別

すべての種別（一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報）の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web ページで確認してください。Web 投稿の際には、以下の点にご注意ください。

- 「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください。
- 特集論文研究会(2022 年 3 月 22 日(火))で発表を行った方は、投稿情報入力の際に 「事務局への連絡事項」の欄に、特集論文研究会での発表題目と発表番号を記載してください。

4. スケジュール

論文投稿締切： 2022年6月1日(水) (予定) → 2022年6月15日(水)締切延長しました※
採録通知予定： 2022年12月初旬まで
学会誌 掲載： 学会誌 Vol. 40, No. 2, 2023年4月1日発行

※なお、6月2日(木)以降に原稿提出いただく場合、原稿の投稿に先立ち、6月8日(水)正午までに下記、事前投稿エントリーフォームに必ずエントリーをお願いします。

事前の投稿エントリーがない場合は、一般号として受理することがあります。

2022年度論文特集号 事前エントリーフォーム：※ 6月8日(水)正午まで

<https://forms.gle/jdLRcVq9wfQNhooN9>

5. 特集号編集委員会

委員長： 瀬田 和久(大阪府立大学)
副委員長： 村上 正行(大阪大学)
筆頭幹事： 後藤田 中(香川大学)
幹 事： 高木正則(岩手県立大学)， 田中孝治(金沢工業大学)，
山崎 治(千葉工業大学)
幹事補佐： 近藤 伸彦(東京都立大学)， 津森伸一(聖隷クリストファー大学)，
山元 翔(近畿大学)
委 員： 学会誌編集委員

6. 問い合わせ

全 般： 後藤田 中(香川大学) E-mail: gotoda.naka@kagawa-u.ac.jp
Web投稿： 編集事務局 電話： 03-6824-9363 E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp
〒162-0801 東京都新宿区山吹町332-6
パブリッシングセンター (株) 国際文献社内



Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会（JSET）との合同英文誌 ITEL（Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>）Vol.3 への掲載原稿を募集しています。査読プロセスが早く進めば Vol.2 へ掲載される可能性があります。この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。投稿後、原則、7 か月以内に 2 回の査読が終了するように配慮しています。短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。学位取得を目指されている方や留学生のみなさんからのご投稿もお待ちしております。

- 論文種別： 一般論文（Regular Paper, 基本 8 ページ）, 実践論文（Practice Paper, 基本 8 ページ）, システム開発論文（Development Paper, 基本 8 ページ）, ショート論文（Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで）
<これまでのショートノート（Short Note）と実践速報（Report on Practice）を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領（Author Guidelines）等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行ってください。
 - 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行ってください。
 - 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正（Proofreading）を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。



重点領域検討委員会の役割と活動について

担当者： 重点領域検討委員会

教育システム情報学会には様々な委員会がありそれぞれに学会活動の重要な役割を担っています。ここでは「重点領域検討委員会」の役割と活動についてご紹介いたします。重点領域検討委員会は 2017 年度に設置された最も新しい委員会の一つです。ただ、重点領域検討委員会は会員の皆様の学会活動においては直接的に関わることは少ないため、あまりご存じないかもしれません。会員の皆様の目に触れるところでは全国大会における企画セッションは重点領域検討委員会が企画・提案・運営しているものが多くあります。

さて、学会の規約によりますと重点領域検討委員会の業務は以下のように書かれています。

1. 学会活性化のための研究課題領域の調査・検討に関する事項
2. 研究課題領域に即した部会の設置に関する事項
3. 部会運営のための基本方針に関する事項
4. 部会のための組織の編成と運営に関する事項
5. 部会による研究会等イベントのプログラムの編成と運営に関する事項
6. 部会による研究会等イベントの開催と運営に関する事項
7. 部会による研究会等イベントの開催場所の期間・場所に関する事項
8. その他、部会全般の企画・管理・渉外・収支管理などに関する事項

総じて「学会が重点的に取り組むべき研究課題を検討してその研究課題に取り組む部会の設置」および「部会ごとの活動を支援すること」とまとめることができます。重点領域検討委員会が設置される前は学会には多くの研究部会がありそれぞれが独自に活動をおこなっていました。しかし、学会の目指すべき方向性や特徴をより明確にするために、研究部会の中から学会の特徴をよく表し、かつ特に重点的に取り組むべき研究部会を精選して 3 つの研究部会（情報教育部会、医療看護部会、Learning Analytics 部会）を含み入れる形でスタートしました。その後、Advanced Learning Technology 部会が設置され、現在は 4 つの研究部会が活発に活動をおこなっています。各部会の活動内容は後述致します。

学会の目指すべき方向性を検討するためには関係の委員会との連携が必要です。その連携のハブとなるのも重点領域検討委員会の大きな役割です。今後も重点領域検討委員会は、研究会委員会、編集委員会、全国大会委員会等と連携して、学会の目指すべき方向性や特徴がより明確になるよう活動を強化していきます。会員の皆様からも、学会が取り組むべき課題やテーマについて、どうぞご意見を重点領域検討委員会（委員長：松居辰則（早稲田大学））までお寄せいただけますと幸いです。

■ 情報教育部会

情報教育部会は、データドリブン社会の到来と Society5.0 の実現を目指す大きな社会変革の中で、情報教育の進展に資する研究・開発・実践等の知見を幅広く学会員と共有するとともに、その成果を社会へ

還元・連携させていくことを目的としている。初等中等教育、高等教育および社会人教育を対象に、情報教育で必要とされる能力・スキル、教育内容・方法、学習環境や教材、指導体制・方法等について、全国大会や研究会等を通じた意見交換や情報共有を行い探究していく。特に近年は、学習指導要領の改訂が行われた初等中等教育における情報活用能力の育成、高等教育において求められているデータサイエンス教育の推進、数年後に予定される大学共通テストへの情報の導入などに焦点をあて活動する。さらには、情報の学び手への支援のみならず、情報教育を推進する「担い手の育成」に向けた支援（教材・研修）の仕組み、規準&基準などにも目を向けて活動を推進していく。

■ 医療看護部会

医療看護部会は、コロナ禍を契機としたコンピュータやネットワークの利用を前提とした教育・学習環境の普及といった、教育システム情報学分野における重要な転機において、本学会における看護・医療分野における研究・開発・実践を幅広く連携させることを目的としている。これまでの ICT 活用による教授方法だけでなく、ニューノーマル時代の Augmented Reality (AR)や Virtual Reality (VR)によるメタバース空間の活用、ソーシャルロボット、センシング、IoT、AI、エージェントなどの新たなツールの活用、教育評価におけるビッグデータ解析、IR などから明らかになった新たな知見に関する研究動向を広く調査・収集し、これまで以上に多様化する医療・看護現場等のニーズに適応した学習体験の創出につながる情報発信を、学会内外の様々な取組と連動しながら実施する。

■ Learning Analytics 部会

Learning Analytics (LA) 部会は、教育・学習にかかわるデータの利活用に関する理論・技術・実践に関する研究・調査・普及を活動の中心的課題としている。教育・学習にかかわるデータの分析や利活用に関しては、そのサイズや規模に関わらず教育システム学研究や教育工学研究の長年の研究成果が蓄積されてきている。コンピュータの性能の飛躍的な向上や多種多様な教育・学習にかかわるデータ取得が可能になったことから、LA はその発展的延長上にあると考えるべきである。LA では従来の数理統計的な手法を中心とした手法に加えて機械学習、”AI”、可視化技術を適切に用いて、教育・学習の新しい支援にとどまらず新しい時代の教育・学習のデータ社会基盤としての展開が期待されている。さらに、生体計測技術の進歩（機器の低廉化と小型化）は LA により粒度の細かなデータの利活用の可能性をもたらす。このことは認知的側面のみならず情動的側面をも考慮した新しい学習支援の実現の可能性を意味している。LA 部会は産学実の連携で常に新しい時代に向けた教育・学習支援の手法や基盤開発に関する基礎的・実践的・応用的まで幅広い研究活動を実施する。

■ Advanced Learning Technology 部会

Advanced Learning Technology 部会は、ソーシャルロボット、Virtual Reality (VR)、Augmented Reality (AR)などの先進的学習メディアの進展や、深層学習やデータマイニング等における人工知能関連技術のブレイクスルー、コロナ禍を契機としたコンピュータやネットワークの利用を前提とした教育・学習環境の普及といった、教育システム情報学分野における重要な転機において、本学会における先進的学習支援技術の研究・開発を幅広く連携させることを目的としている。ニューノーマル時代の学習体験に資する認知的、感情・情動的プロセスやその支援に関する研究動向を広く調査・収集し、これまで以上に多様化する個のニーズに適応した学習体験の創出につながる情報発信を、学会内外の様々な取組と連動しながら実施する。



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016 年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000 円(定例研究会年 6 回、特集研究会 1 回、計 7 回分を含む)
- ・当日販売:1 冊 1,000 円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をしていた方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究会報告年間購読希望
会員番号 (お分かりであれば) :
お名前 :
所属 :
連絡先 e メールアドレス :
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

関東支部より活動報告



関東支部 2022 年度支部総会 開催報告

担当者： 関東支部 支部長 山本 樹（明海大学）

教育システム情報学会関東支部の 2022 年度支部総会を、2022 年 5 月 21 日（土）にオンラインで開催いたしました。支部総会の出席者 23 名と委任状 57 名、計 80 名により総会が成立致しましたことをご報告いたします。議事として以下の事項について提案し、ご承認いただきました。

1. 支部役員の構成

本年度の支部役員および運営委員の構成は、以下の通りです。支部活性化を目指して運営委員の増員と担当の再構成をおこないました。

支部長：山本 樹（明海大学）
副支部長：大河 雄一（東北大学）
 國宗 永佳（千葉工業大学）
幹 事：辻 靖彦（放送大学）
 小島 一晃（帝京大学）【新規】

運営委員：

総務担当：佐々木 整（拓殖大学）
財務担当：山崎 治（千葉工業大学）【新規】
企画担当：小島 一晃（帝京大学）※兼務【新規】
広報担当：大河 雄一（東北大学）※兼務【新規】

植野 真臣（電気通信大学）
宇都 雅輝（電気通信大学）【新規】
大崎 理乃（武蔵野大学）
柏原 昭博（電気通信大学）
加藤 泰久（東京通信大学）
高木 正則（電気通信大学）【新規】
高橋 暁子（千葉工業大学）【新規】
田和辻可昌（早稲田大学）
東本 崇仁（東京工芸大学）

中嶋 竜一（株式会社デジタル・ナレッジ）
仲林 清（千葉工業大学）
根本 淳子（明治学院大学）
長谷川 理（武蔵野大学）
松居 辰則（早稲田大学）【新規】
松下孝太郎（東京情報大学）【新規】
三石 大（東北大学）【新規】
渡辺 博芳（帝京大学）

2. 支部会則第 19 条, 第 22 条の改定

支部役員会で推薦した候補者以外に立候補者がいない場合に投票を行わず支部長、副支部長候補者を選出できるよう支部会則の第 19 条（選任方法）の改定を、また、支部役員会で役員候補者を推薦している実情に合わせ第 22 条（決議事項）の改定を行うことを提案し承認されました。なお、この支部会則改定は、学会理事会の承認により施行されます。

3. 2021 年度の活動報告・2022 年度の活動予定

4. 2021 年度の決算報告・2022 年度の予算計画

本年度も、2022 年 11 月頃に産業・学術・教育実践の 3 分野連携による新たな学びの共創を目指したイベント「リサーチ・コ・コ・コモンズ」を東京近郊で開催する予定です。また、2023 年 3 月上旬に学生研究発表会の開催も予定されています（運営協力）。いずれも新型コロナウイルスの感染状況が引き続き気になるところではございますが、状況を確認しながら、対面での実施も考えております。いずれにしても、開催の際には、支部会員の皆さまのご協力、および、ご参加いただけましたら幸いです。

5. その他

今後は支部活性化のための人的基盤の構築と広報を行うことをより一層重点化したいと考えております。

今後も支部会員ならびに学会員の皆さまより、本支部の活動へのお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

広報からのお知らせ



Twitter アカウントの紹介

2016 年 8 月下旬より，全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました．本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております．本学会へのご質問・お問い合わせは，学会事務局（secretariat@jsise.org）へお願いします．

<https://twitter.com/JsisePr>

◇ 2022 年 5 月 29 日現在，フォロワー数 259 アカウント



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会の公式 Facebook ページを運用しています．本ページでは，論文・発表募集や本学会に関連するイベントの情報などをお届けしています．ぜひ，ご覧下さい．

Facebook ユーザの方は，ぜひ，「いいね」をお願いいたします．

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

◇ 2022 年 5 月 29 日現在，いいね 494 件，543 人フォロー

Twitter，Facebook への情報掲載の依頼などは学会事務局（secretariat@jsise.org）までお問い合わせください．



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

協賛「第 24 回日本感性工学会大会」

日時：2022 年 8 月 31 日（水）～9 月 2 日（金）

会場：オンライン開催

協賛「日本情報科教育学会第 15 回全国大会」

日時：2022 年 7 月 2 日（土）・3 日（日）

会場：大阪学院大学

協賛「2022 年度工学教育研究講演会」

日時：2022 年 9 月 7 日（水）～9 月 9 日（金）

会場：日本大学理工学部とオンライン開催

協賛「ヒューマンインタフェースシンポジウム 2022」

日時：8 月 31 日（水）～9 月 2 日（金）

会場：関西大学



国際会議のご案内

- 2022 年 6 月開催

EdMedia + Innovate Learning Summit

開催期間 : June 20-23, 2022

開催地 : New York City

URL: <https://www.aace.org/conf/edmedia/>

- 2022 年 8 月開催

IFIP WCCE 2022: World Conference on Computers in Education

開催期間 : August 20-24, 2022

開催地 : Hiroshima

URL: <https://wcce2022.org/>

- 2022 年 10 月開催

SITE Interactive 2022

開催期間 : October 5-6, 2022

開催地 : Online Conference

URL: <https://site.aace.org/online/>

- 2022 年 11-12 月開催

ICCE 2022: 30th International Conference on Computers in Education

開催期間 : November 28 - December 2, 2022

開催地 : Kuala Lumpur, Malaysia

URL: <https://icce2022.apsce.net>



会費納入のお願い

学会の運営は皆様の年会費で支えられております。今年度の年会費が未納の方はご入金をお願いいたします。なお、10月以降に年会費が未納の場合、学会誌の送付が一時休止されます。入金確認後、入金日の翌月末までに今年度内の未送付分も合わせて学会誌の送付を再開いたします。3月末までに入金を確認できない場合は、未送付分の学会誌はお送りできなくなりますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱 UFJ 銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、**入会金を無料**にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。（2022 年 3 月 25 日～2022 年 5 月 27 日）

本学会での益々のご活躍を期待しております！

会員名	会員種別	会員名	会員種別
新保 和仁	正会員（購読）	高本 陽花	正会員（購読）
照井 雅子	正会員	耿 学旺	学生会員
梶谷 隼世	正会員	李 トウ	学生会員
川口 めぐみ	正会員	勝間田 仁	正会員（購読）
大西 武	正会員	古川 俊	正会員
李 迅	学生会員（購読）	近澤 優子	正会員
鈴木 計哉	正会員	後藤 孔	正会員
坂野井 和代	正会員（購読）	橋本 幸枝	正会員
中島 さち子	正会員（購読）	内田 保雄	正会員
天野 由貴	正会員	大山 龍一郎	正会員
池谷 光司	正会員	久島 智津子	正会員
柳田 英俊	正会員	小高 葉子	正会員
苑田 裕樹	正会員	永田 晴都	学生会員
尹 智鉉	正会員	中野 統英	正会員
日置 晋平	正会員	蜂須賀 知理	正会員
石戸 成知	正会員（購読）	渕本 壱真	学生会員
渡邊 ゆきこ	正会員	松浦 碧	学生会員
後藤 壮史	学生会員（購読）	山田 健斗	学生会員

（計 36 名）